

令和2年第2回えりも地域ゼニガタアザラシのモニタリング方法に係る 作業部会の検討状況の報告

日時：令和3年1月25日（月）13：30～16：15

会場：札幌エルプラザ 環境研修室1

出席者：松田先生、北門先生(Web)、小林先生(Web)、三谷先生(Web)、山村先生(Web)
大林、若松、唐橋、中田、熊谷

主な意見・指摘	結論・今後の方針
<p>(1) 音波忌避装置の取り扱いについて 装置の仕様とこれまでの経緯を整理した資料を提示した。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・他の海獣類で行っている類似の忌避装置などの事例でも、経緯のとりまとめは業務報告書止まりで、情報が埋もれてしまうことが多い。論文や学会誌での報告をしてはどうか。 ・忌避装置は漁業者からの要望があると思われるので、今後も音波以外の忌避装置を含め文献調査を継続し、参考事例があれば検証して欲しい。 ・この資料に外からアクセスできるようにしておくべきである。なぜこの仕様にしたのか、誰の意思決定によるのか、どのようなプロセスだったのか、この資料では不明な部分がある。 ・今後、忌避装置の検証を再開する際には、環境省だけでなく専門的な知見を有する人材によく意見を聞くべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回科学委員会及び保護管理協議会にて説明し、一時中断とする。 →資料1-2 ・忌避装置を含めた非致命的被害防除対策についても、引き続き検討と情報収集を行う。 →文献調査業務を実施中
<p>(2) ドローンによる生息数調査の手法確立について 北門先生の解析結果、昨年度の調査データを用い、天候と岩礁の一区分での発見率が示された。今度のドローン調査や必要なパラメータについて、検討を行った。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・従来の発見率と大きく変わるものではなく、これまでのシミュレーションに大きな誤差はないと思われるが、一方でこれまでは天候などの条件の良い時に調査を実施していた可能性があるため、過去は過大評価だった可能性がある。 ・繁殖期と換毛期では利用する岩礁に一部違いがある。換毛期になるほど岬から奥の岩礁を利用するようになる。そのため、繁殖期と換毛期に分けて検証すべきである。 ・年度ごとの検証は、調査時の環境データがないものもあり、難しい。繁殖期と換毛期に分けて検討することは可能である。 ・場所の区分については季節で比較する場合、再検討の必要があるかもしれない。 ・ドローン調査と過去を目視調査を比較するためには、上陸 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度もドローン調査はできる条件の時には季節を問わず実施に努める。 ・過去の調査データを整理し、過去の目視調査の発見率と季節ごとの上陸割合の解析を行う。 ・引き続き、上陸数の調査をドローン主体として移行していくために必要な、過去の発見率、ドローン調査時の上陸割合などのパラメータの整理を行い、効率的なドローンのモニ

<p>割合、上陸個体数の季節変化、発見率が必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年は、換毛期である夏に荒天が多く、ドローン調査ができる条件が整わない。 	<p>タリング方法を検討する。</p>
<p>(3) 漁業被害調査について 調査の設計案について、ご意見を伺った。→資料1-3</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・被害対策の成果を判断するのはこの調査である。来年度専門家にヒアリングし、再来年度から調査を開始する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年度、専門家の意見を踏まえながら、作業部会にて設計の詳細を決定する。
<p>(4) 捕獲幼獣個体数の成獣個体数への換算割合について 北門先生の解析結果に基づいて検討を行った。計算上は来年度以降当歳のみを捕獲すると仮定した場合、現行の約2倍の捕獲数が必要となるとの結果になった。ただし、実際には当歳のみを捕獲とはならないことや、メスは高齢でも死亡するまで出産すると仮定していることなどの課題があり、結果の取り扱いには注意を要する。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・今後もモニタリングの精度を上げる努力は必要である。 ・メスは死亡するまで出産をするという仮定については、注意が必要である。 ・当歳のみを捕獲するのであれば目標とする個体数に達しないが、成獣の捕獲に努めるという認識である。現管理計画の捕獲の目安を今の時点で見直す必要はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、最新のモニタリングデータを入れて解析を行う。 ・現管理計画においては今後も毎年の捕獲目標を50頭とする。
<p>(5) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度のタコ漁被害調査の報告を行った。撮影した映像にアザラシは映っておらず、来年度も引き続き実施することとなった。 ・小林委員による近年の調査において、アザラシの上陸個体数が減少している印象を持っており、個体群シミュレーションの結果よりも個体数が少ない可能性があるとの指摘があった。検証のため、小林委員より遺伝子による個体数推定と成獣の行動調査の提案があり、必要なサンプル数や予算、ランダムサンプリングが可能かなどの課題について、今後検討することとなった。 	